

現代シルクロードの要衝 ウルムチ市

海外の
地方自治体

新疆ウイグル
自治区

ウルムチ市

北京事務所長補佐 辻 大輔（鹿児島県派遣）

新疆ウイグル自治区は、北東部はモンゴル、西はロシア、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、南西部はアフガニスタン、パキスタン、インドと接するユーラシア大陸の交通の要衝です。3本の主要ルートを抱える古代シルクロード上の重要な地域であり、年間23万人以上の外国人観光客が訪れます。ウルムチ市はその区都であり、現代シルクロードの交差する地です。



概要

新疆ウイグル自治区（以下、新疆）は中国の最西部に位置し、面積は一六六万km²（日本の約四倍）と中国の総面積の六分の一を占める行政面積の最も大きな省（自治区）です。国境線は五六〇〇kmもあり、中国で最も国境線の長い省（自治区）でもあります。

その区都であるウルムチ市は、総面積が一・二万km²、人口が二〇〇万人を超え、世界で最も内陸に位置する都市として知られています。現代のウルムチ市は「シルクロード」のイメージとは異なり、高層ビルの建ち並ぶ近代的な都市です。新疆の政治、経済、文化、科学技術、情報の中心となっており、



↑ウルムチ市内の街並み

天山の南北をつなぎ新疆と中国内地を結ぶ交通の要衝であると同時に、中国の西への門戸であり対外経済文化交流の窓口です。ウルムチ市を中心



↑古代シルクロード

に半径一五〇〇kmの円を描くと、中央アジアの二カ国が入りますが、その地域の中でウルムチ市は最も人口が多く、最も繁栄している都市であると言えるでしょう。

古代シルクロードにおいて中央アジアの交通の要衝であった歴史を持つこのまちは、現代シルクロードの十字路でもあります。ユーラシア大陸を横断する鉄道（中国では「ランドブリッジ」と呼ばれている）はウルムチ市を経由して中央アジアにつながり、現在拡張工事中のウルムチ空港は一〇〇以上の航空路線を持つ中国の五大ハブ空港の一つです。「中国で最も暑く、最も寒く、最も乾燥し、最も風の強い地域がすべてここにある」などと言われるように、典型的な大陸性乾燥気候の新疆の中でも、天山山脈の南側は特に乾燥が激しく、ウルムチ市の年間降水量は三三六mm、年間平均気温は八度です。加

えて、気温の年格差、日格差が激しく、夏場の日中には三〇度を超え、冬場にはマイナス二〇度まで下がることもあります。しかし、周囲が万年雪を頂く高峰に囲まれているため、ウルムチ河、頭屯河、柴窩堡河、白楊河の四大水系など雪解け水を水源とする河川が多く、乾燥地域にもかかわらず水不足には縁がないと言われています。

歴史

この地域は古代、遊牧民族の支配下でしたが、前漢時代、屯田を目的に移住してきた人々が開墾し農業を興すとともに、西域都護府が開設され初めて中国王朝の支配化に入りました。隋時代には「互市(外国との通商)」活動の展開により中原文化(中原とは現在の河南省・山東省・山西省の大部分と、河北省・陝西省の一部、黄河中流域の平原地帯)の形成に大きな影響を与えました。唐代に入ってから、ウルムチ地区に駐留した軍隊が屯田兵として開墾を進めたとされています。

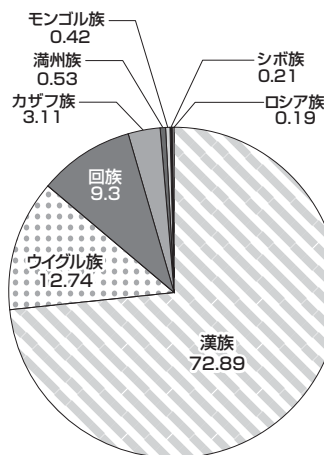
明代になるとモンゴル族オイラト部がウルムチの九家湾地区に築城しましたが、清王朝がジュンガル部を平定した際、この城は戦火によって焼け落ちたと言われています。清王朝はウルムチを新疆支配の中心とするために多くの満州族騎兵を駐屯させ、「迪化(啓発し開化するの意)」と命名、特に一九世紀にロシア帝国が東進して来ると対口

シアの軍事拠点としてさらに重要視され、一八八四年、新疆省が設立され迪化は省都となり、まちはさらなる発展を遂げました。その後、清末から中華民国時代にかけては国内の混乱や諸外国の侵入によって混乱を極めました。解放後の一九五四年、迪化はウルムチと改称され、再び中国西部地域の拠点として開発が進められ飛躍的な発展を遂げ現在に至っています。

少数民族

新疆の人口は一八四六万人、四七民族が居住しており、このうちの二三は原住民族です。各少数民族合計は約一一〇〇万人で人口の約六〇％を占めます。主な少数民族としてはウイグル、カザフ、回、モンゴル、キルギス、シボ、タジク、満州、タタール、ウズベク、ダフル、ロシア族で、住民の多くがイスラム教徒です。しかし、ウルムチ市は新疆全体と比較して漢族の占める割合が比較的高いことが特徴です(図)。

図：ウルムチ市の民族構成(%)



現在の中国では「民族区域自治」という民族政策が採られており、少数民族は集中居住する地域に設置された民族自治地方において自治権を享受しています。新疆においても、一九五五年の新疆ウイグル自治区設立に伴いウイグル人の政治プロセス参加が可能になり、自治区政府の主席は原則としてウイグル人が務めています。文化面でも自民族語による学校教育や出版活動の実施が制度的に保障されてきました。

産業

産業面からウルムチ市を見た場合、工業では石油化学、製鉄、建設、紡績、軽工業が集中しています。また、第三次産業が比較的發展していることも特徴の一つで、全市の



↑ウルムチ市内大バザールの様子

国民総生産の六二％を第三次産業が占めます。二〇〇三年に完成した新疆国際大バザール(ウイグル語で「市場」の意は総面積一〇万㎡という広

大な敷地に巨大な環形城堡、八〇mの遠望塔、二〇〇〇mの「歡樂広場」、三〇〇〇の売店を抱える商業区とイスラム風モスクがあり、多くの観光客でにぎわっています。ここでは、新疆のさまざまな民族衣装、装飾品、工芸品、特産品だけでなく、中央アジア各国の特産品も購入することができ、民族食品街は羊肉を焼く香りが充満しています。ウルムチ市だけでなく新疆全体にとって、観光業は地域振興に欠かせない重要な産業です。新疆は、中国人自身が「この地に来て、初めて中国が広いと感じた」と驚くほど広大な土地で、多くの民族が住み、自治区内各地が多彩な歴史的、文化的背景を持つことで知られています。日本人にも「シルクロード」としてなじみが深く、多くの観光客がウルムチ市を経由して吐魯番（トルファン）、喀什（カシュガル）などの有名な観光地を訪れています。

自治区レベルでの大きな動きとしては「西部大開発」が挙げられます。一九九九年一月、中央経済工作会议で重点プロジェクトに決定され、二〇〇〇年三月に全人代で正式に発動された「西部大開発」プロジェクトは、基本目標として東部沿海地区と西部内陸地区の経済格差の是正、民族自治地方の貧困の克服が掲げられています。新疆関連では、天然ガスのパイプラインをタリム盆地のガス田から大消費地である上海までつなぐ全長四二二二km、投資額五五五億元という巨大プロジェクト「西氣東輸」プロジェクトが構想され、二〇〇二年にはシェルとの合弁で一部が着工されました（注1）。

また、新疆北部は中国国内でも比較的



↑風力発電施設

風力資源の豊富な地域で、新エネルギーの開発も進められています。日本の富士総合研究所は二〇〇四年七月、中国節能投資公司（中国国営の省エネルギー事業最大手）の風力発電事業について、CDM（クリーン開発メカニズム）プロジェクトを開始することと合意しました。（注2）日本企業が中国でCDMプロジェクトを行うのはこれが初めてです。節能はウルムチ近郊トリ地区で三万kW規模の風力発電事業を計画しており、このうち、二〇〇五年から二〇一二年までの発電分についてCDMプロジェクトを実施します。同プロジェクトでは、CO₂換算で年間約一〇万tの温室効果ガス排出量削減が見込まれています。

おわりに

中央アジアという発展可能性のある市場の中で、ウルムチ市はその牽引役となる潜在能力を秘めています。資源が豊富で位置的にも交通の要所であると言えますが、日

本の自治体にとってはあまりなじみがないというのが現実ではないでしょうか。現在、新疆の地方政府と日本自治体の間には吐魯番（トルファン）市―山梨県勝沼町、哈密（ハミ）市―富山県入善町という二つの友好都市しかありません。これは、中国国内のほかの省（区）と比べてみてかなり少ない方です。

確かに、中国西部という地理的な条件は交流にとってマイナス面もあるでしょうが、日本との接点がないわけではありません。例えば、観光面では、シルクロードに興味がある者にとって新疆は憧れの地であるし、日本人の中でそういった人は決して少なくないでしょう。環境問題の分野では、CDMプロジェクトに見られるような協力も可能です。

当事務所では、二〇〇五年七月にウルムチ市において「第四回日中地域間交流推進セミナー」を開催します。ウルムチ市及び新疆に対して興味がある自治体関係者の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

（注1）中国は二〇一〇年までにGDPを現在の水準の四倍にするという国家目標を掲げており、GDP成長とは不可分の消費電力について、目標を達成するために必要な電力規模は二〇一〇年で六億kW、二〇二〇年には九億kW（現在は二〇〇四年末で約四億kW）となる、との見方を国家电网公司是示している。二〇〇五年一月にはタリム油田で五億t規模の新たな油田が発見され、恒常的な電力不足の問題を抱える中国では当プロジェクトによる電力不足解消が期待されている。

（注2）CDMは、京都議定書に盛り込まれたCO₂排出量取引の仕組み。先進国が途上国で行った温室効果ガスの削減事業の削減量を、自国の削減目標達成に割り当てることができる。途上国には投資と技術移転の機会が得られるメリットがある。